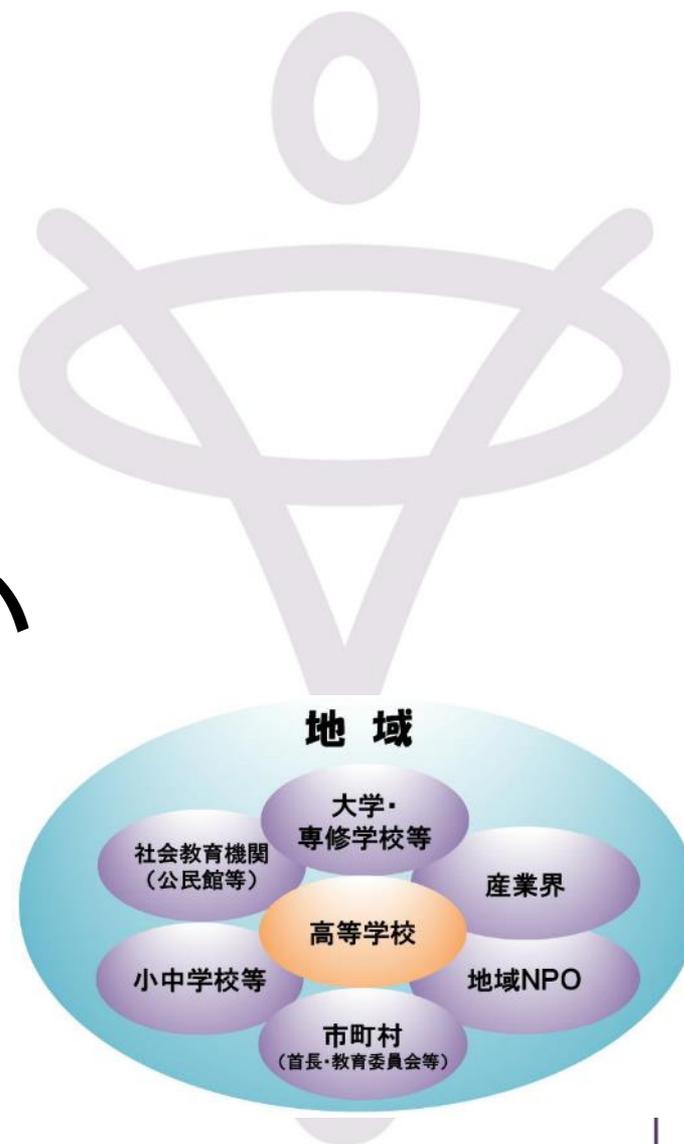


令和元年度 第5回 過疎地問題懇談会
～ 過疎地域における人材育成 ～

過疎地域の 小規模高校を どう位置づけるか

令和元年 11月 26日(火)

大正大学 地域構想研究所
教授 浦崎 太郎



4 質の高い教育を
みんなに



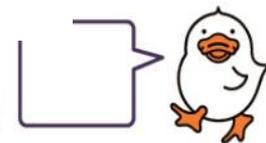
11 住み続けられる
まちづくりを



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



過疎地域における人材育成（要旨）

国の将来を担う若者を育成する場として「**過疎地の小規模高校**」は非常に価値が高い。

よって、旧来の価値観を放置したまま
既存の計画に基づいて
小規模高校の統廃合を進めるのではなく、
むしろ、これを活用するため、国はもとより、
各道府県内でも価値観の転換を図りつつ、
「都市部の大規模高校」から
「過疎地の小規模高校」へと
進学を誘うのが賢明である。

過疎地域における人材育成（ポイント）

■ なぜ「高校」なのか？

- ・ 固有の才能を徹底的に伸ばす時期だから

■ なぜ「才能の徹底開花」なのか？

- ・ 情報社会の価値創造参画に必須だから

■ なぜ「地方」「過疎地」なのか？

- ・ 社会を変革できる感覚を持てるから

■ なぜ「小規模高校」なのか？

- ・ 教育改革の具現化に最適な環境だから

「Society 5.0」と「探究」

■ Society 5.0 (AI時代)

人間にしかできないこと = 探究

Society 1.0 狩猟社会

Society 2.0 農耕社会

Society 3.0 工業社会

Society 4.0 情報社会

Society 5.0 AI社会

平成30年 5月3日の探究活動

課題設定

「なぜ、山間部なのに平野が広がっているのか？」

「なぜ、“千曲川”はこんなに水量が多いのか？」

情報収集・・・類似の光景はなかったか？

「神通川×富山平野、最上川×庄内平野・・・」

整理・分析・・・共通性は何か？

「豪雪地帯・・・雪解け水！」

まとめ・表現

「大量の雪解け水で運ばれてきた土砂が堆積した」

Society 5.0 (=AI時代)に必要な力

■ 人間には容易だが AI には困難なこと

- ① 現場で「感じる」こと
- ② 問いを立てること
- ③ 意味を味わうこと

探究

(自問自答)



- 課題発見(問い)には
現場(地域)で「感じる」ことが必要
- 感性には個性 → 探究テーマは高い個別性

これからの時代に必要な力

■ Society 5.0 (AI時代)

人間にしかできないこと = 探究

■ Society 4.0 (情報社会・ネット社会)

知識は瞬時に賞味期限切れ

- ・「知恵を生み出す」力が必要
- ・「三人寄れば文殊の知恵」
- ・「徹底的に個性を伸ばす」ことが必要

「知恵を生み出す訓練」の必要性

“三人寄れば文殊の知恵”

対話

(主体的・対話的で深い学び)

似た者どうしの集団から知恵は生まれない
お互い思いきり「尖っている」ほうがベター

若者が帰属意識をもつ集団・場所

「その価値を実感できる」「楽しい」のほか・・・

- ① 親近感・一体感をもてる人たちがいる
- ② 自分をそこで表現できた
- ③ 自分がそこで成長できた



若者は自分に無関心な地域には戻ってこない
信頼を寄せる大人から誘われれば
喜んで参加し、一緒に挑戦し、表現・成長できる

人材の育成・回帰にむけて必要な投資

■ Society 5.0 (AI時代)の教育

一人ひとりの感性・興味関心に応じた探究

■ Society 4.0 (ネット社会)の教育

・「三人寄れば文殊の知恵」

・「徹底的に個性を伸ばす」

■ 若者が帰属意識をもつ地域

① 大人(≡地域課題)との一体感がある

② 興味関心に応じて成長・表現できる



「公正に個別最適化された学び」が必要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

2019年度予算額 251百万円(新規)



文部科学省

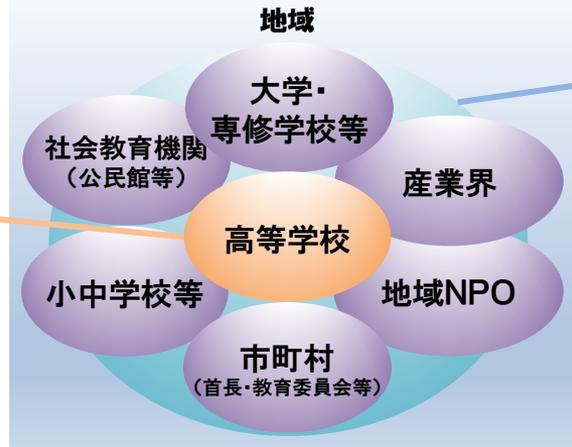
新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築

高等学校

- ・地域との協働による活動を学校の活動として明確化
- ・専門人材の配置等、学内における実施体制を構築

- ✓地域における活動を通じた探究的な学びの実現（新高等学校学習指導要領への対応）
- ✓学校の中だけではできない多様な社会体験



コンソーシアム

- ・将来の地域ビジョン・求める人材像の共有や協働プログラムの開発
- ・学校と地域をつなぐコーディネーターを指定

- ✓高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターンが促進される
- ✓地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

標準スキームを踏まえつつ、地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開

【プロフェッショナル型】 〈専門学科中心10校程度〉

地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域の特産物の付加価値を高め安定的な食料生産により地域の発展を担う人材を育成
- ・ものづくりに関する専門的な技術を身に付け、市場産業を支える人材を育成 など

【地域魅力化型】 〈普通科中心20校程度〉

地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

～特徴・取組例～

- ・地域との連携に係る教科横断的な単位を設定
- ・衰退しつつある地域の振興方策を地域との連携により研究・実践 など

【グローバル型】 〈学科共通20校程度〉

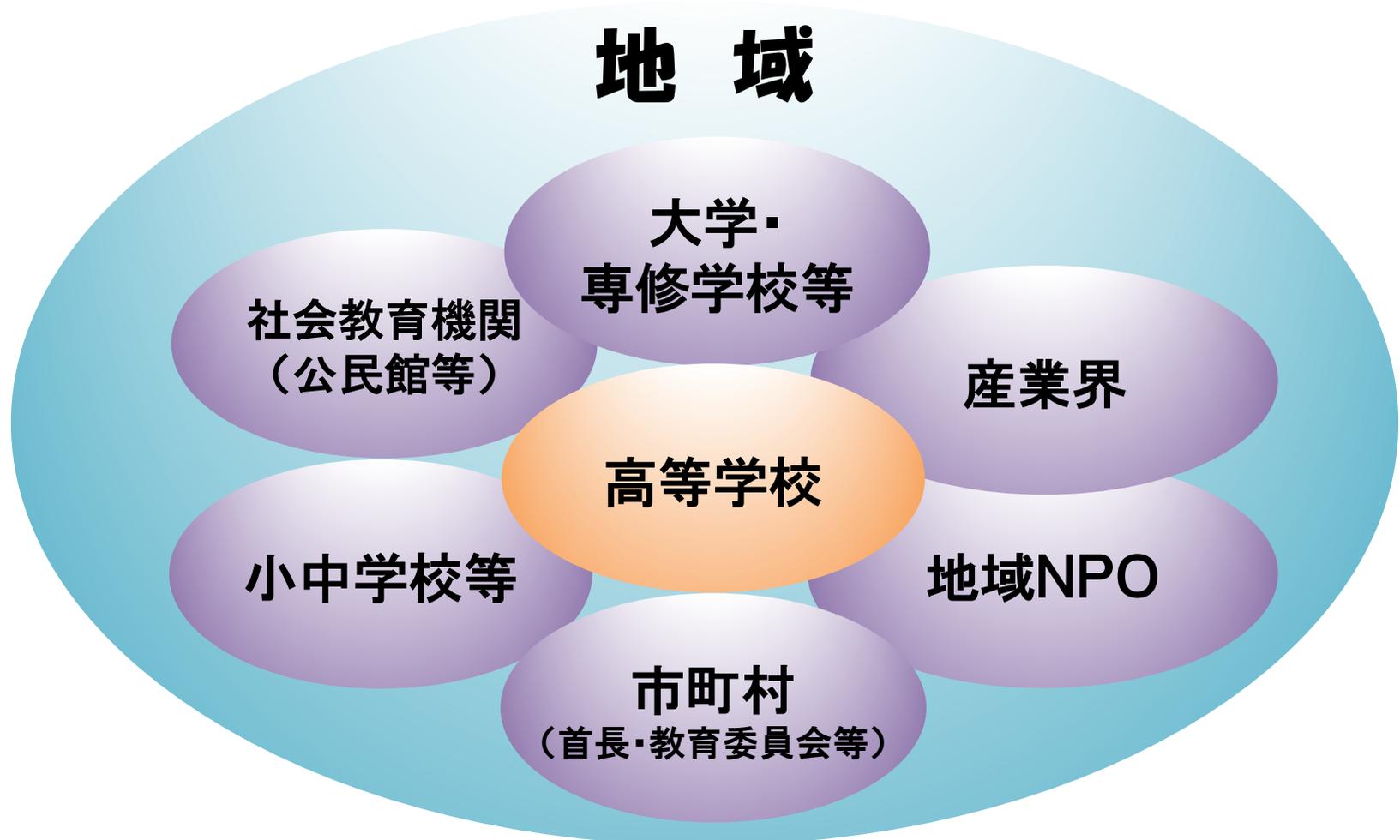
グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成。

～特徴・取組例～

- ・グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発
- ・海外研修等カリキュラムの中に体系的に位置づけ
- ・海外からの留学生を受け入れるなど外国人生徒と一緒に授業・探究活動等を履修
- ・コミュニケーション能力を重視した外国語（複数外国語含む）の先進的な授業を実践 など

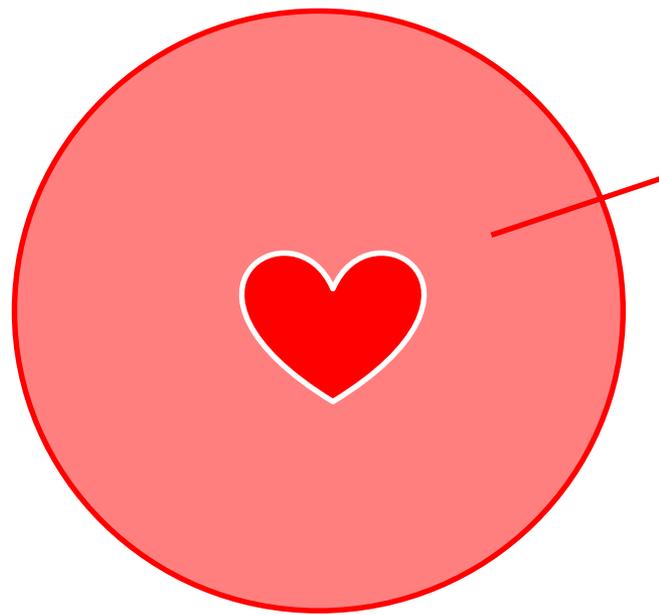
地域・学校魅力化コンソーシアム(仮称)

各生徒の興味関心と地域の課題とを効果的にマッチングする組織



「学びの個別最適化」に不可欠

地域課題解決 と 個別最適化

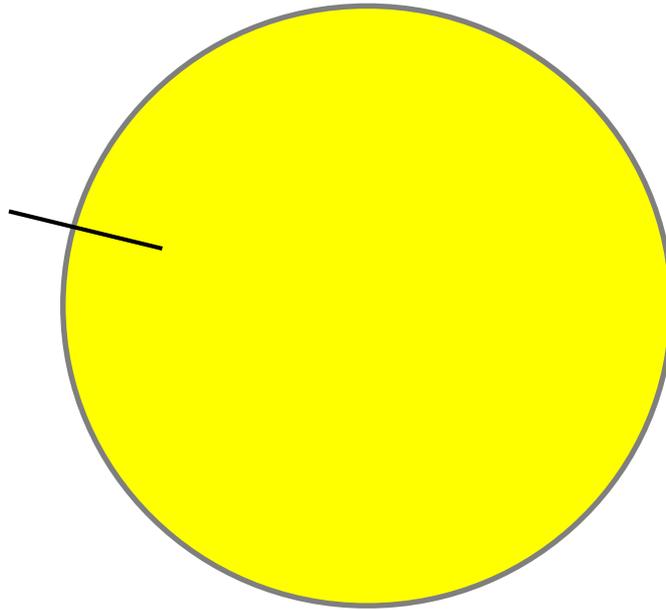


個別最適化
(問いに当事者性)

典型例は「マイプロジェクト・アワード」

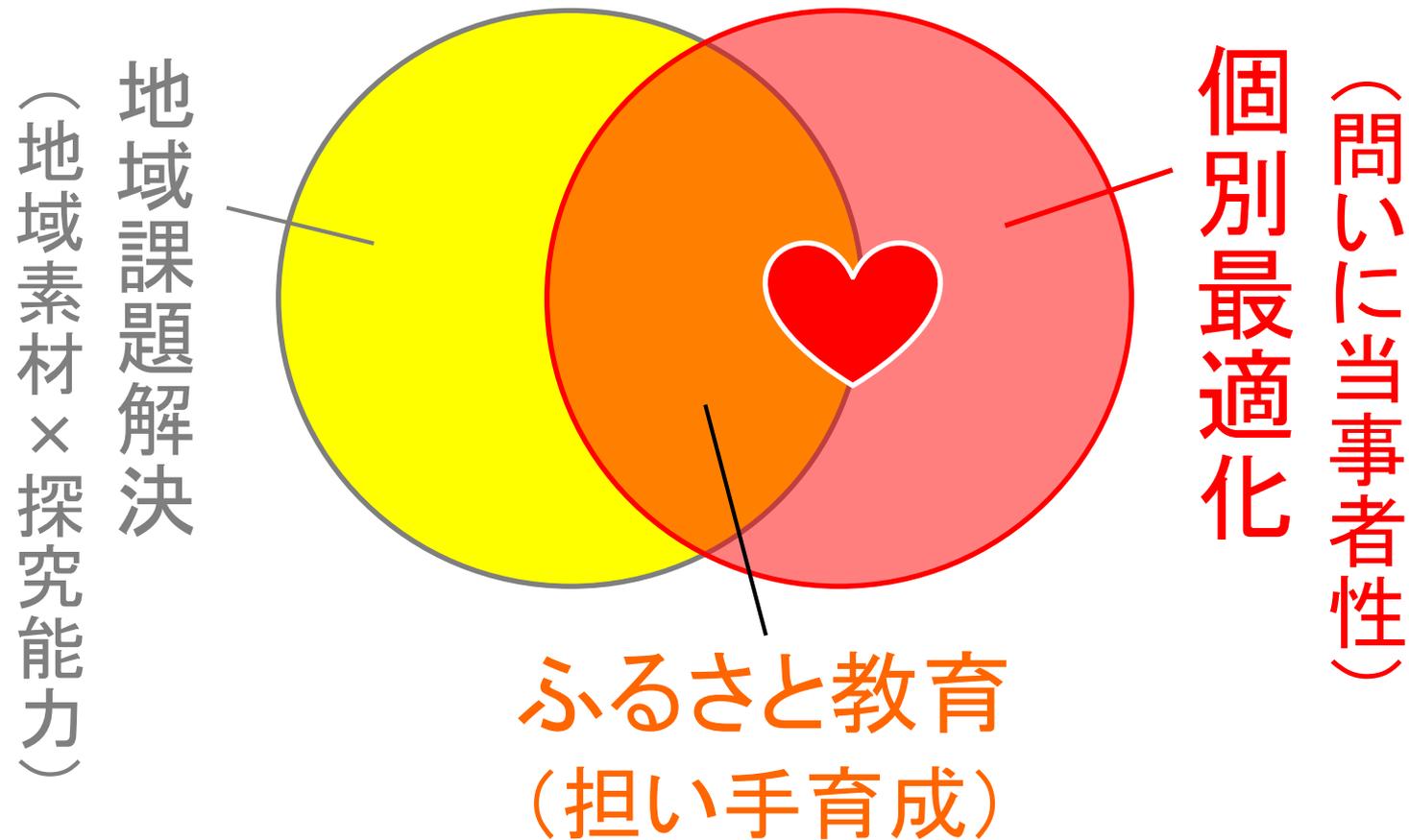
地域課題解決 と 個別最適化

地域課題解決
(地域素材×探究能力)



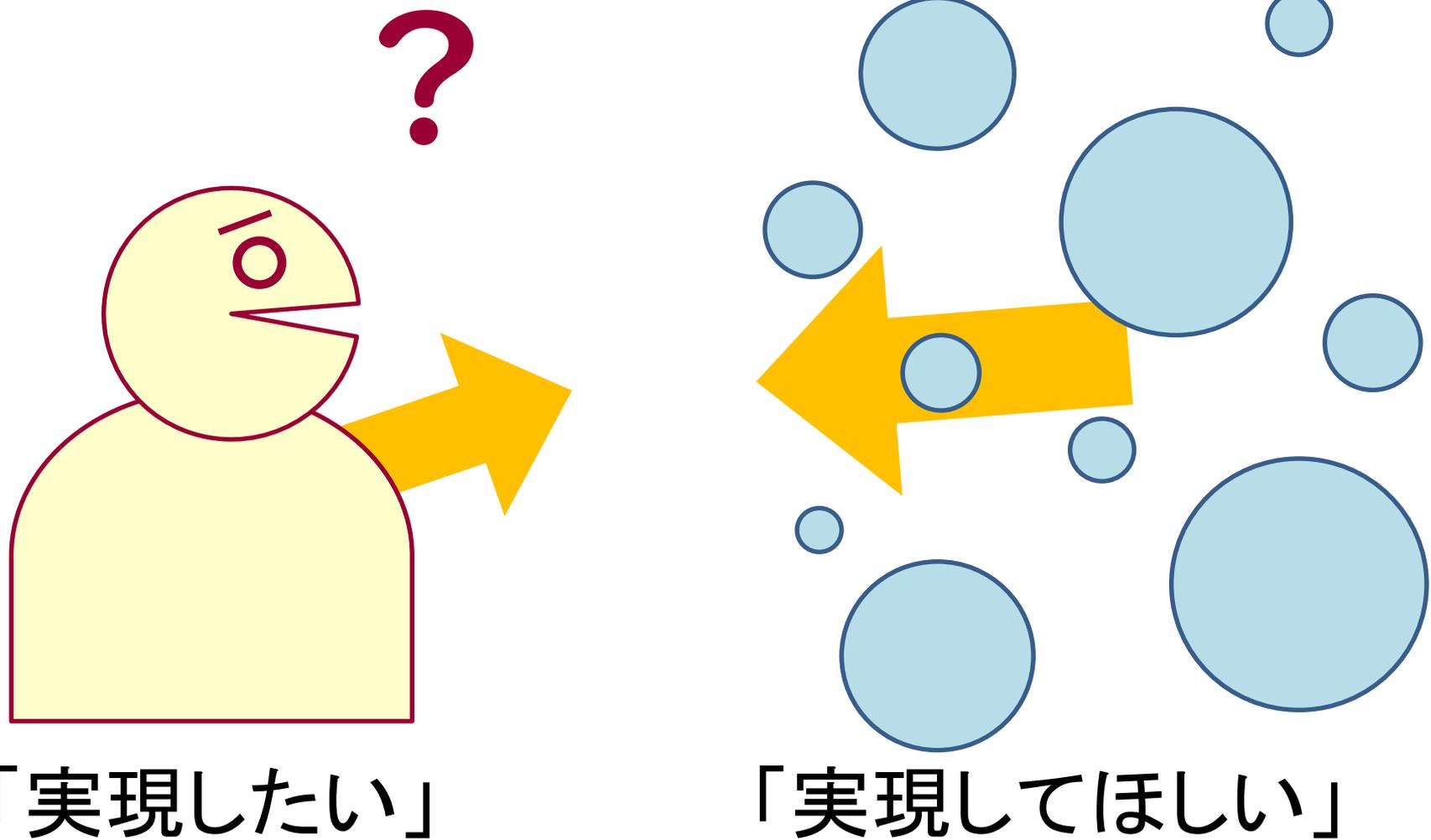
“地方創生”以後に強調された教育内容

地域課題解決 と 個別最適化



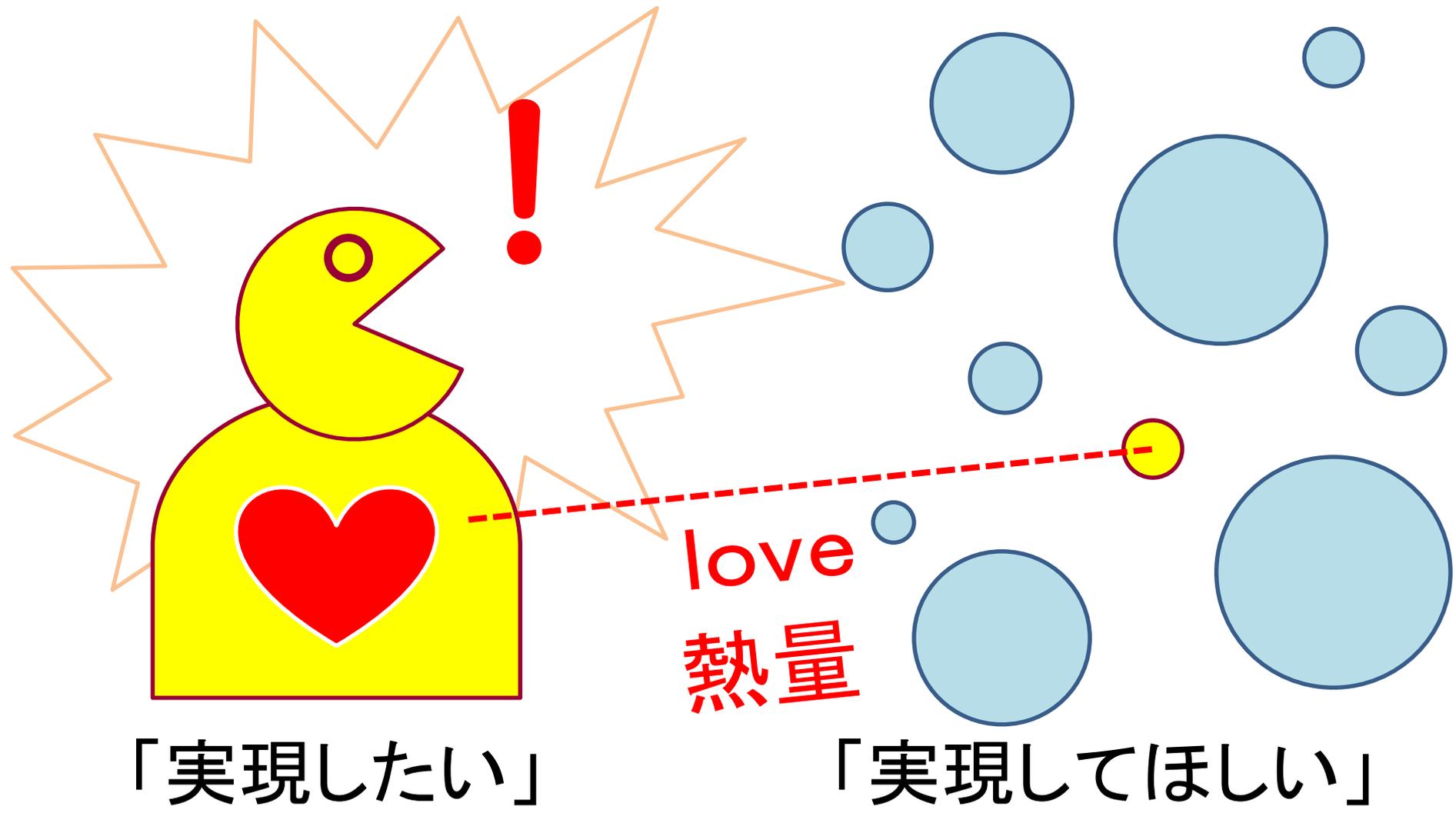
両者をどう重ね合わせるかが 腕の見せ所

地域との協働を通して育てている高校生像



マッチングを 双方が丁寧に模索

地域との協働を通して育てている高校生像



love
熱量

「実現したい」

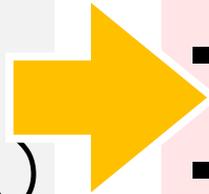
「実現してほしい」

“夢中は努力に勝る”

昭和の教育 vs 令和の教育

昭和（工業社会）

- 定型作業に需要
- 人も規格品が有利
- 生徒は学校に従属
- 興味関心を封印
- **全員一律**（40名クラス）
- 管理強制
- 人や社会から遮断
- 学校で完結可能



令和（ネット社会）

- 価値創造に需要
- 尖った人物が有利
- 学校が個性を開花
- 興味関心を尊重
- **学びの個別最適化**
- 挑戦に伴走
- 人や社会と繋げる
- 学校で完結不可能

平成は世界の潮流に逆行して衰退した時代 17

社会の変遷 と 次世代の育成

■ Society 2.0（農耕社会）・・・均質性重視

- 先祖伝来の土地や文化をそのまま継承
- 個性や抜きん出た才能は不要

■ Society 3.0（工業社会）・・・均質性重視

- 「規格品の大量生産」が富の源泉
- 人も「規格品の大量生産」・・・個性は封印

■ Society 4.0（情報社会）・・・多様性重視

- “三人寄れば文殊の知恵”が富の源泉
- 「個別最適化」で熱情や個性を徹底開放

地方社会の活路

■ 必要な基本認識

- Society 2.0 的な地域風土が色濃く残る地方社会も、Society 4.0 に属している。

■ Society 2.0 的な 地域&高校づくり

- UIターン者を既存の風習に同化(従属)
- 「わが地域のため」に入学者を受入れ

■ Society 4.0～ に適した 地域&高校づくり

- UIターン者も個性を発揮して「創り出す」
- 「公正に個別最適化された学び」を提供

高校生に対する意識・態度

■ Society 2.0

- 人は生まれ育った地で生きていくものだ。
- 地域の担い手は地元出身者だ。
- 進学や就職で外に出すな！
- 長老の言うことを聞け！
- 今まで通りのやり方に従え！
- 勉強させるな！・・・出たら帰ってこないから
- 郷土愛を植え付けろ！
- 外に出ても戻って来い！
- 言うことを聞く者なら 外来者は歓迎！

高校生に対する意識・態度

■ Society 4.0～

- ・ 生きる道は“三人寄れば文殊の知恵”だ。
- ・ 自分ならではの才能を存分に伸ばせ！
- ・ 最大限に成長&表現できる環境を選べ。
- ・ 才能をフルに活かせるところで生きよ。
- ・ 専門性を高めて広い世界を渡り歩け！
- ・ 地元に戻ることは優先しなくてよい。
- ・ この地で成長&表現したい若者は大歓迎！
- ・ この地にある資源を活かして、何かを一緒に創り出していける人物は大歓迎！

小規模高校に関する SWOT分析

強み・プラス要因

弱み・マイナス要因

内部環境

Strength

- ・ 全職員が各生徒を細かく把握できる。
- ・ 機動性が高く、チャンス在即座に活かせる。
- ・ 各生徒の興味関心に応じて学びを「個別最適化」できる規模である。
- ・ 伝統的に「生徒の内面に配慮した指導」が展開され、必要なノウハウが蓄積され、文化も醸成されている。
- ・ 地域が近く、地域探究を授業時間に実施できる立地や人的資源に恵まれている。

Weakness

- ・ 保小中時代からの固定的な人間関係が継承され、殻を破りにくい。
- ・ 地元だけで提供できる資源の多様性には自ずから限界がある。
- ・ 広い世界にふれる機会が乏しく、変わるチャンスが少ない。
- ・ 教科指導が属人的になりやすく、教科指導のノウハウが組織的に継承されにくい。

外部環境

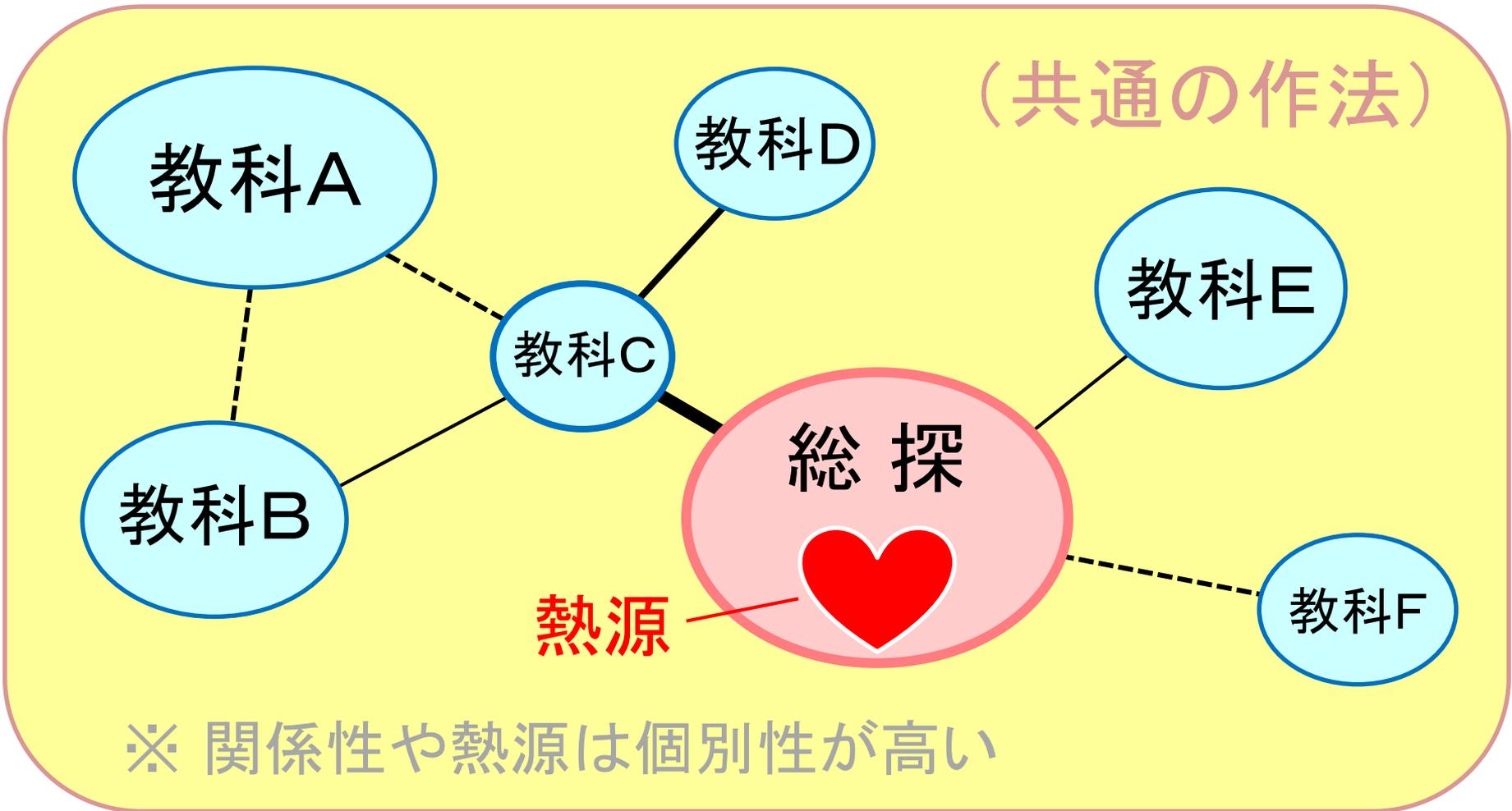
Opportunity

- ・ Society 5.0 の到来に関わり、小規模校の方が圧倒的に有利な「個別最適化」を文部科学省が明確に打ち出している。
- ・ 国の地方創生策における「高校と地域の連携・協働」の優先順位が上がり、「地方の魅力ある高校への地域外留学」や「コンソーシアムの設立」が明確に謳われている。
- ・ 通信環境の向上により、EdTech を導入すれば都市部との格差を解消できる。

Threat

- ・ 学校が所在する地域における15歳人口のさらなる激減により、定員をはるかに下回る状態の常態化が避けられない。
- ・ N高校の人気の年を追って高まっており、一定層の生徒にはリアルな高校に進学する価値の低下が避けられない。

カリキュラム・マネジメントと個別最適化



各生徒の中で「学びが組織化」されているか

高校改革と地域魅力化の統合

① 高校のための地域

- 教育活動のために地域資源を活用する
(が、地域の魅力化は ずっと先・・・待てない)

② 地域のための高校

- 地域活動のために高校生を消費する
(ので、次世代は育たない)



③ 人づくりと地域づくりの統合

- 高校生・教師・地域の大人が関わりあい、
高校生・教師・地域が揃って変容する

「育成を目指す資質・能力」と「その方法」

- ① 何を理解しているか 何ができるか
- ② 理解していること・できることをどう使うか
- ③ どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか



“資質・能力”の向上と調和的

- 高校生が 地域の多様な大人とともに
(地域の)課題発見・解決にあたる。



関わりあいを通して…

- 高校生も 大人も 地域も 揃って変容する

小規模高校に関する SWOT 分析

強み・プラス要因

弱み・マイナス要因

内部環境

Strength

- ・ 全職員が各生徒を細かく把握できる。
- ・ 機動性が高く、チャンス在即座に活かせる
- ・ 各生徒の興味関心に応じて学びを「個別最適化」できる規模である。
- ・ 伝統的に「生徒の内面に配慮した指導」が展開され、必要なノウハウが蓄積され、文化も醸成されている。
- ・ 地域が近く、地域探究を授業時間に実施できる立地や人的資源に恵まれている。

Weakness

- ・ 保小中時代からの固定的な人間関係が継承され、殻を破りにくい。
- ・ 地元だけで提供できる資源の多様性には自ずから限界がある。
- ・ 広い世界にふれる機会が乏しく、変わるチャンスが少ない。
- ・ 教科指導が属人的になりやすく、教科指導のノウハウが組織的に継承されにくい。

外部環境

Opportunity

- ・ Society 5.0 の到来に関わり、小規模の方が圧倒的に有利な「個別最適化」を文部科学省が明確に打ち出している。
- ・ 国の地方創生策における「高校と地域の連携・協働」の優先順位が上がっており、「地方の魅力ある高校への地域外からの集客」や「コンソーシアムの設立」が明確に謳われている。

Threat

- ・ 学校が所在する地域における15歳人口のさらなる激減により、定員をはるかに下回る状態の常態化が避けられない。
- ・ N高校の人気の年を追って高まっており、一定層の生徒にはリアルな高校に進学する価値の低下が避けられない。

- ・ 通信環境の向上により、EdTech を導入すれば都市部との格差を解消できる。

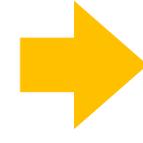
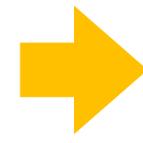
地方創生本部における浦崎の提言(要旨)

中学校

高校

大学

社会人

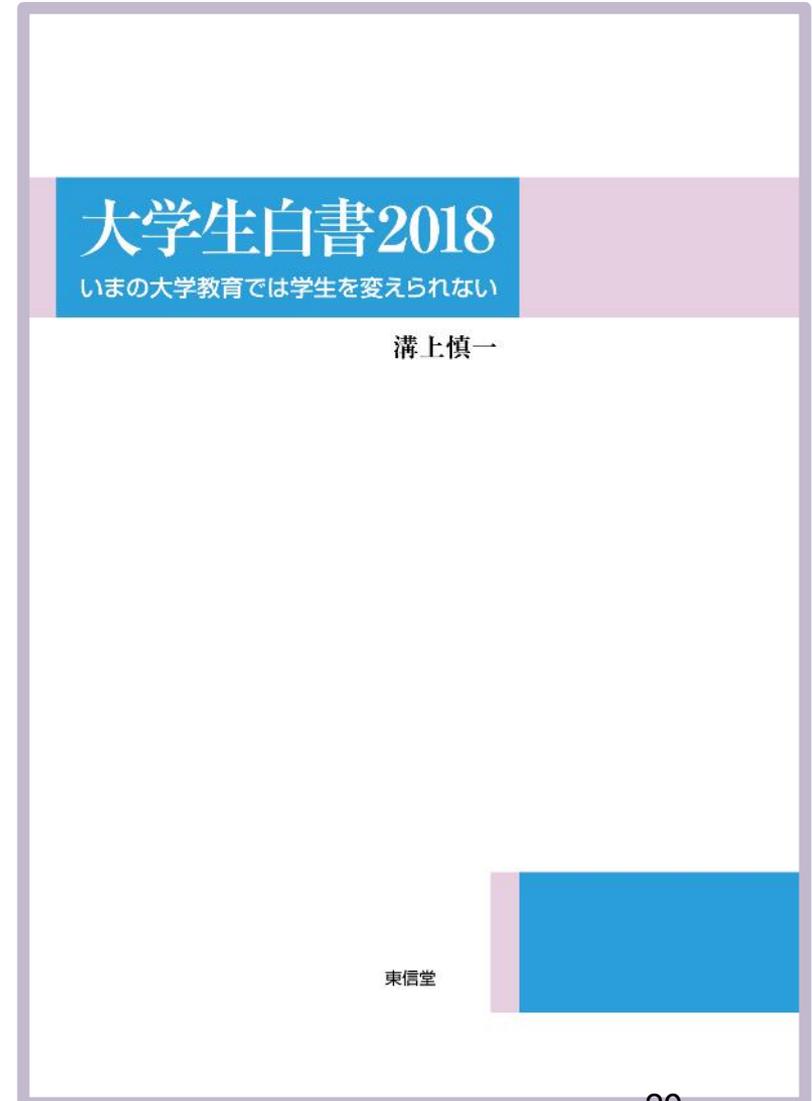


「都会の中学生を地方の高校へ留学させよう」

溝上慎一先生からの調査結果報告

「社会人基礎力は
大学入学後には
ほぼ変わらない」

大学生白書2018
いまの大学教育では
学生を変えられない



ありうる未来

【動向】

- ・ 社会人基礎力をしっかり育成できる高校が地方の小規模校を中心に増えている
(都市部の大規模校は今後も変わらない)

【就職に対する優位性】

- ・ 地方の地域連携に熱心な高校の方が有利

【起こしうる流れ】

- ・ 企業等が出身高校に注目して採用する
- ・ 就職のため あえて地方の高校に進学させる

「高校」の未来予測

高校や自治体の対話性が **高い**場合

- ① 現在の高校を母体に次の“学校”ができる
 - ・・「過疎地 × 小規模高校」と調和的

高校や自治体の対話性が **低い**場合

- ② 地域主体で「探究」を運営 + ネット学習
- ③ 中学卒業後 海外 or 他県の“学校”へ流出
 - ・・「過疎地 × 小規模高校」が受け皿に

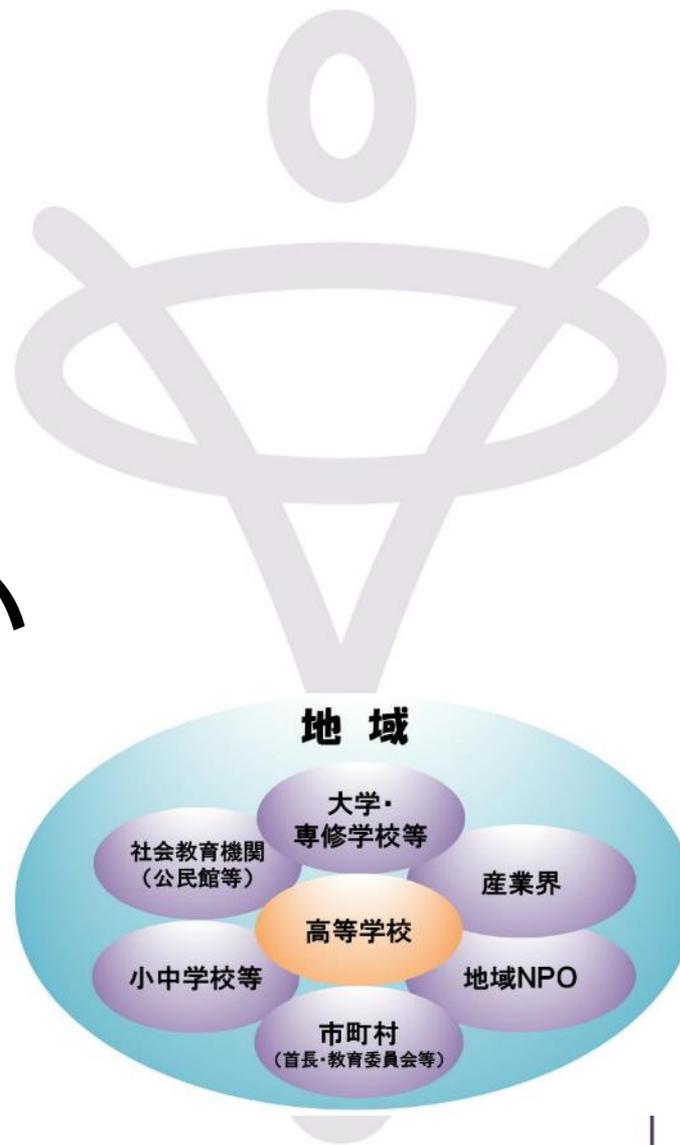
令和元年度 第5回 過疎地問題懇談会
～ 過疎地域における人材育成 ～

過疎地域の 小規模高校を どう位置づけるか

ご清聴ありがとうございました

令和元年 11月 26日(火)

大正大学 地域構想研究所
教授 浦崎 太郎



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

